

## ●横浜とサイダーの関係

1863年(文久3年)に我が国での清涼飲料水製造の元祖とも呼ばれる英国人ノースレーは、横浜で『ノース&レー商会』と称す菓種商を開業し、1868年(明治元年)横浜居留地でレモネード、ジンジャーエール等の製造を始めました。

1899年(明治32年)横浜扇町の秋山巳之助氏が日本人で初めてサイダー製造の工業化に成功し『金線サイダー』とその名が永く伝えられるサイダーの製造が始めました。横浜は日本人によるサイダー製造と名前の発祥地なのです。



## ●現在のオリヅルサイダー

地元のブランドを大切にしようという昨今の流れの中で、新横浜ラーメン博物館様が賛同していただき、2006年4月より旧式の手動式ラムネ製造機を使い来場者に実際にラムネ製造を体験していただける店舗を、地下2F広場に開店。また同年11月には朝日新聞で弊社の昭和20年代の横浜野澤屋(現松坂屋様)の屋上販売の記事が掲載され、松坂屋様のご好意により弊社のオリヅルサイダーのコーナーを、1F酒類売り場にて展開させていただきます。

## ●オリヅルサイダーの歴史

弊社は1901年(明治34年)の創業時、生麩の製造業者として、横浜の地で営業を行ってききましたが、1927年(昭和2年)オリヅルラムネという名前でもラムネの製造販売を始め翌年にはオリヅルサイダーの製造販売を開始、そして終戦、米国の占領軍の施設への納入業者として娯楽施設(マッカーサー劇場、ゲーリック球場等、米軍に接収された施設)にサイダー、ラムネ等の飲料、食料品を納めていました。そこで赤い折鶴のエキゾチックなマークのサイダーが米国軍の評判を呼び土産品として大量に買い込まれました。



昭和20年代横浜伊勢佐木町野澤屋(現松坂屋)屋上



弊社は横浜の地サイダーブランドとして、今後も地元で愛される商品造り、ご提案を行っていきたく考えています。

## 関連商品

オリヅルラムネ・ラムネゼリー・ところてん・あんみつ